

教育班だより 10月号

気仙沼教育事務所 HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mskyoz/>

朝晩は涼しさが増し、木々が色づき始める季節となりました。秋は、学習発表会、合唱コンクールや文化祭等、保護者や地域の方に学習の様子を発表する機会が多く、子供たちの自信を深め、可能性を広げる大きなチャンスです。今回は、当管内の子供たちの活躍についてお知らせします。

志高く!! 陸上中学男子100M 日本歴代5位 階上中学校 畠山 一気 さん

本格的に陸上を始めたのは、昨年10月から。階上中学校の畠山一気さんは、県中総体陸上競技男子3年100M で10秒79のタイムで優勝し、宮城県の中学記録を27年ぶりに更新しました。その後の全国中総体、国民スポーツ大会陸上競技大会でも記録を更新し、現在の自己ベストタイムは日本中学歴代5位の10秒61。わずか1年間で次々と記録を更新し、目標を達成している一気さん。夢の実現に向けて取り組んできたこと、また今後の夢についてお話を伺いました。

○ラグビーから陸上へ

小学校からラグビーを続けてきましたが、腰のけがをしてしまい、ラグビーを続けることが難しくなっていました。高校でもラグビーを続けたいと思っていたので、陸上一本に決断するときは正直、迷いもありました。小学校のとき、陸上のスポーツ少年団で、走ることの楽しさを感じていたので、自然に陸上でやってやるぞという気持ちになりました。

○夢の実現のために大切にしてきたこと

2年生のときの作文には「全国で戦える選手になりたい」と書きました。2年生の県新人陸上大会は11秒98。予選落ちでした。でも、この結果だったからこそ、「周りを見返したい」、「絶対に夢を達成したい」と強く思うようになりました。まずは、インターネットの動画を見たり、本を読んだりして、走り方やトレーニングを自分で学ぶことからスタートしました。この時点の目標は全国大会参加標準記録の11秒20。それに向けて冬場のトレーニングに取り組みました。

春になり大会に出るたび、よい記録が出るようになりました。その頃の目標は、宮城県記録の10秒85を破ることでした。県大会、東北大会、全国中総体と記録をどんどん更新することができ、県の中学生記録も更新することができました。次の目標は、指導してくださっている陸上チームのコーチの自己ベスト10秒55です。

○支えてくれている人への思いとこれからの夢

今、仙台の陸上チームで週に2回練習しています。自分が頑張れるように親がいつも応援してくれています。大会の前になると励ましてくださる先生方、いつも勇気づけてくれる学級の友達がいました。福井県で行われた全国大会にも校長先生が応援に来てくださいました。校舎内には、自分の写真をたくさん掲示していただいています。僕の結果を周りの人たちは本当に喜んでくれています。この1年間、自分の記録を更新したいという思いを持って取り組んできました。そんな中、応援してくれる周りの人たちの期待に応えたいという思いもどんどん大きくなっていきました。

僕はこれまで、目標を宣言してそれを達成するために取り組んできました。高校では、1年生でインターハイ決勝進出、2年生でインターハイ優勝、3年生で桐生選手のもつ高校記録10秒01を破って9秒台を出すことが目標です。その目標を達成するためにこれからも練習に取り組み、期待に応えられるような選手になりたいと思います。

【校長先生、教頭先生から】

階上中学校では、一気さんが力を発揮できるように環境を整えることを心掛けてきました。先生方も周りの生徒も一気さんが大会に出るときには学校全体で送り出し、みんなで応援してきました。その気持ちに応えたい、励みになっているという一気さんの言葉はとても嬉しく思います。今後も生徒一人一人の夢や思いの実現に向け、学校のみならず、支えていきたいと思っております。

一気さんのお話からは、明確な目標を持ち、その実現に向けて取り組んできたことが伝わってきました。そして、周りの期待に応えたいという思いが成長につながっていることがうかがえました。各校においても志教育を推進していただいておりますが、子供たちの夢の実現に向けて、今後も御指導をよろしくお願いいたします。



算数チャレンジ2024 3位入賞 気仙沼小学校「ヤドライズ」

算数チャレンジ2024 予選7月22日～25日(各学校)、本選9月7日(総合教育センター)
参加チーム：県内155校 552チーム、管内の小学校12校 47チーム

宮城県教育委員会主催の「算数チャレンジ2024」では、当管内から、気仙沼市立気仙沼小学校、気仙沼市立唐桑小学校の2チームが、県内上位30チームが参加する本選に進出しました。3位入賞を果たした気仙沼小学校の「ヤドライズ」の廣野真之さん(6年)、齋藤純乃さん(6年)、半澤勇士郎さん(6年)、校長先生、研究主任の先生、担任の先生にお話を伺いました。

【ヤドライズの3人から】

○参加するきっかけと予選に向けて

昨年度、担任の先生に「算数チャレンジに出てみない？」と声をかけられ、今年度は小学校生活最後の思い出にと思い、参加を決めました。スキルタイム(業前時間)や放課後学習の時間には、担任の先生が用意してくれた過去の問題や発展問題に取り組みました。いつもたくさん問題を準備してくれた担任の先生や、算数の教科担任の先生に励まされながら頑張ることができました。

○予選突破、本選に向けて

予選は個人の合計点で行われ、「友達の足を引っ張らないように」とか「予選を突破できるかな」という不安もありましたが、突破することができて「やってやるぞ！」という気持ちになりました。本選に向けて問題に取り組んでみたとき、最初は「こんな難しい問題、解けるわけない」と思いましたが、夏休み中に家族と一緒に問題を解いたり、チームで集まって対策をしたりして自信が深まりました。一方で、勉強すればするほど不安や怖さも増してきました。

○緊張の本選と3位入賞

本選では予選よりも緊張し、胃も痛くなりましたが、3人で力を合わせて取り組みました。もっとリラックスしていれば、問題をしっかりと読んで、更に良い結果が出せたのではないかという気持ちもありました。結果発表で「気仙沼小学校ヤドライズ」と呼ばれたときは、「やった!」「本当に?」という驚きや喜びが入り混じり、夢のようでした。終業式で校長先生から賞状をもらったときには、ようやく実感が湧いてきました。来年の算数チャレでも、後輩たちには予選を突破して、緊張せずに頑張ってもらいたいです。

○算数チャレンジを振り返って

算数チャレンジに取り組んでみて、仙台や富谷ではなく、気仙沼の学校から3位になれたことは、私たち自身も誇りに思います。この挑戦を通じて自信が付き、何事もやればできると感じるようになりました。支えてくださった先生方や、家の人にありがとうと言いたいです。このメンバーでチャレンジできて本当に良かったです。

【校長先生、研究主任の先生、担任の先生から】

3人は授業でも活発に発表し、いろいろな思考を展開できる個性豊かなメンバーです。それぞれの良さを認め、個別に励ましながら支援してきました。また、この3人に限らず、5年生のときから校長先生がスキルタイムで発展問題に挑戦させたり、担任と算数担当が授業や業前活動で支援を行ったりするなど、子供たちが意欲的に取り組めるよう工夫してきました。

今後も「教師が話しすぎない授業」「子供自ら学びに向かう授業」を目指して学校全体で授業改善に取り組み、算数のおもしろさに気づき、主体的に学ぶ子供たちを増やしていきたいと思っています。



今回、「ヤドライズ」のメンバーの話を伺って、互いのよさを認め合い、尊重している態度に感心しました。また、先生方は一人一人の児童の個性を生かしつつ、寄り添いながら支援してきたことがよく分かりました。3人の実力、チームとしての連帯感があったことはもちろんですが、学校、家庭が子供たちの成長を信じて種をまき、ときに見守り、ときに励ましながら取り組んできたことが今回の結果につながったのだと思いました。

算数チャレンジ2024の開催にあたりましては、市町教育委員会、各小学校の先生方に御協力をいただき感謝申し上げます。今後も算数に対する興味・関心が高まるよう、各学校における御指導、御支援をよろしくお願いたします。算数チャレンジ2025においても多数の学校、チームの参加をお待ちしております。